

日本建築の良さを生かした家作り 呼吸する素材と工法で常に快適

©福岡市 M邸



新刊大特集

家づくりは
楽しい

「古くならず、深くならず」
そんな家作りをめざして

天然素材と日本古来の工法を用いて、本物の家作りをめざしたM邸。日本建築の家が本来持っている通気性や調湿性、利便性などの利点を最大限生かしている。

家作りに使われた素材は全てが天然素材。杉材の床は、40ミリと通常の住宅で使われる倍以上の厚さで強度と調湿・保温効果を発揮。またリビングの壁は漆喰にわらを混ぜて、調湿効果と同時にリビングに豊かな表情をもたらしている。和室のたたみ表は草ではなく、強度があり肌触りのいいインド表を使用。その他に無双窓、ねこま障子といった日本の家ならではの造作があちこちに設えてある。ゆったりとくつろげる落ち着いた雰囲気だ。訪れる友人もついつい長居してしまっそう。

太陽熱や風などをとり入れ、壁の中で循環する夏・冬可変型のエアパス工法を用いている。断熱性と通気性の両方を合わせ持ち、家に帰った時に室内の空気がムツとすするような不快感が全くないという。厳しい冬や夏、梅雨など四季を通して快適に過ごすことができるようだ。

「家にいるのがとにかく気持ちいい。家事動線も快適です」と妻。「ヒノキ風呂にゆっくり入ってリラクゼーションしている時間がいい」と夫。「素材や木組み、工法など日本建築のよさを取り入れているため、少しずつこの家に年月が経ったとしても、古くならず、深みを増すはず」とこの家の将来を楽しみにしているようだ。



1 馴染の家具がよく似合うM家のリビング。部屋に入ると木の香りがする。2階は吹抜けになっている



2 小国産の杉を使ったリビング。塗料は無垢材の呼吸を妨げない天然オイル仕上げ 3 家族が大好きなヒノキ風呂。窓にはオーダーしたガラス細工が配されている 4 玄関ホールは畳敷き。右側がリビングルーム、奥の引戸はダイニングキッチンに直結して主婦にとって快適な動線 5 雨に濡れずに半地下の駐車場に行けるように工夫されたアプローチ 6 リビングの窓から日本庭園が広がる。これから花や植木が育つのが楽しみだそう。福岡市の中心部とは思えない眺望

こんなところも 自分STYLE

間取りや工法で空気環境をベストに

1階には廊下や間仕切りがないのが特徴。これによって広がりのある空間を持つことができる上に、室内の空気循環がさらによくなる。冬は換気口を閉め、夏は床下から天井に空気が循環するエアパス工法も取り入れているため、室内の空気環境は常にベスト。少ない冷暖房で四季を通して快適。省エネにもつながっているようだ。

[DATA]

家族構成/夫+妻+子ども2人

敷地面積/400㎡

延床面積/213.10㎡

1F面積/126.98㎡

2F面積/86.12㎡

本体工事費/3000万円

工法・構造/木造軸組工法・2階建て

設計/小林一元建築設計室

施工/永代ハウス

